



☆いのちの授業☆

「たんじょうび」

11月1日(水)の道徳参観日で、命の授業を行いました。主人公のなつこが、自分が生まれた時のことについてお母さんから話を聞き、自分の命について考えを深めるというお話でした。なつこが未熟児として生まれ、40日間保育器に入っていたこと、その間お母さんが毎日お乳を哺乳瓶に入れて届けていたことなどの事実や、なつこに対するお母さんの思いや心配が描いてあり、命があることの奇跡に気付いたり、ふつうに生きているだけでも素晴らしいことだと感じたりすることができる内容でした。

授業の終わりの振り返りには、「自分の命がすごく大切なものと分かった。」「お母さんからもらった命を大切にしたい。」「自分は素晴らしい命をもらったんだなと思った。」などと書いていました。

今回の授業を通して、子どもたちは自分の命そのもののかけがえのなさに気づき、その命を大切にしていこうという思いを持つことができたのではないかと思います。自分に命をくれた家族を敬い、感謝する気持ちを持ち、かけがえのない自分の命を大切にできる人に育ってほしいと思います。

